

タクシー券継続の署名 4, 380筆も

亀山社保協が取り組んだタクシー券の継続を求める署名が4, 380筆(昨年を上回る)集まりました。2月3日には、4, 174筆を櫻井市長に手渡し「継続するよう申し入れ」しました。ご協力をいただいた皆さん、ありがとうございました。

南崎の認定こども園 計画に載せず

2月10日の教育民生委員会協議会で、2020年度から2024年度までの5年間の「第2期亀山市子ども・子育て支援事業計画」(パブリックコメント案)が示されました。この中で南崎で計画されている認定こども園については、2024年度に完成が見込めないという理由で、計画に掲載されませんでした。

認定こども園計画については、市北東部での事業を優先させるとして、2023年度までに川崎南保育園を隣地を購入し建て替え、2024年度までには井田川幼稚園とみずほ台幼稚園を統合して1つの園にするという計画が示されました。

先月号で南崎の計画について、「1年間検討する」という市の答弁を紹介しましたが、向こう5年間の計画に載せなかったということは、計画を白紙に戻したことを意味します。

こうきの主な日誌(2月1日～2月23日) 赤旗の配達、集金活動等は除く

1日 鈴鹿民主商工会新事務所落成式	14日 訪問活動
2日 街頭演説	15日 議会報告づくり
3日 市社保協が市長にタクシー券署名を提出	16日 3月議会に向けた準備
4日 市議団会議 議会報告配布	17日 議会改革推進会議検討部会
5日 全県党議員会議	正副議長と正副議運委員長に議案の説明
6日 来年度政府予算案の学習	18日 亀山・鈴鹿市議団会議 教育民生委員会
7日 訪問活動	19日 予算決算委員会協議会
8日 党後援会「新春のつどい」	亀山駅周辺整備事業特別委員会
9日 タクシー券の署名活動のお礼訪問	20日 議会運営委員会 全員協議会
10日 党会議 教育民生委員会協議会	21日 相談活動 議会報告づくり
11日 市議団ニュースづくり 議会報告配布	22日 亀山駅周辺整備事業市民説明会(傍聴)
12日 市党会議 市議団打ち合わせ	23日 市社保協運営委員会 議案を精読
13日 相談活動	

この議会報告についてのご意見、ご感想をお寄せください

この議会報告は毎月月初めに発行しています 好きです 亀山 住みよい街に

2020年 3月 1日 発行 No. 249

こうきの議会報告

日本共産党亀山市議会議員 服部 孝規
〒519-0156 亀山市南野町6-19-1

ご意見、ご感想は 電話、FAX 0595-82-3646

E-mail kouki.giin@gmail.com 市議団ホームページ 「共産党 亀山」で検索を

市がタクシー券で新方針

聴き取りで市が交付を判断

「みんなで決めたルールより自分のやりたいことをやる」—こんなことを感じる安倍首相の言動です。取り巻きの政治家や官僚の「付度する」姿は、アンデルセン童話の「裸の王様」に見えてきます。私だけがそう見えているのでしょうか。

さて、タクシー券ですが2月10日の教育民生委員会協議会で、昨年12月議会で櫻井市長が答弁した「今後は、乗合タクシーに乗車が困難な方のみにタクシー券を交付する」という新たな方針について説明がありました。

「停留所等が遠くて利用が困難」な人は対象

市の説明では、申請に来た方一人ひとりに聴き取りを行い、「心身等の事情により市が乗合タクシーに乗車できないと判断した方にはタクシー券を交付する」としています。市はチェックシート(氏名、年齢、性別、家族構成、健康状態などをまとめた調査票)で聴き取りを行い、判断するとしています。

重要なのが「心身等の事情」です。例えば、「停留所等が遠くて利用が困難」な人は対象となり、タクシー券が交付されます。そのほか、聴き取りで職員が判断するということから、この聴き取りが重要になります。

乗合タクシー制度の不備を補完するものではない

市は「タクシー券をやめて乗合タクシーに移行を」と言いますが、現在の乗合タクシー制度については、「(乗合タクシーへの)移行が思うようにはっていない。使い勝手が悪い。」という認識なのです。これでは移行の前提の根拠がないこととなります。

もともとタクシー券は、乗合タクシーなどの公共交通とは別に福祉の制度として高齢者が元気に出歩くことで、介護予防になるなどを目的として作られたものです。タクシー券は、乗合タクシー制度の不備を補完するものではなく、福祉の制度として継続すべきです。

400億円でまちづくり リニア 中津川市

400億円ー途方もない額です。亀山市の一般会計の2年分の額です。リニア新幹線中間駅の設置が決まっている岐阜県中津川市では、「リニアのまちづくり」として400億円の事業が組まれています。

以下は以前、中津川市議会全員協議会で示された資料。

坂本駅周辺区画整理 120億円、企業地造成(車両基地) 50億円

テクノパーク 57億円、都市間連絡道路 75億円、青木斧戸線 80億円

その他合わせて総額400億円の事業です。

田舎の小さな駅が大都市に変貌？



この400億円は、岐阜県、中津川市、JR東海によって分担されると考えられ、市がどれだけ負担するのかわかりませんが、「周辺区画整理」や「都市間連絡道路」などかなりの負担が考えられます(半分でも200億円)。リニア駅のすぐ近くの美乃坂本駅は、1日の乗降客数が2,555人(亀山駅が4,241人)で、田舎の小さな駅です。

亀山駅と美乃坂本駅 駅の500m圏内のデータ

1, 人口が美乃坂本駅が836人で亀山駅が1,069人。2, 飲食店数が美乃坂本駅が4件で亀山駅が16件。3, 小売業が美乃坂本駅が10件で亀山駅が32件。

このリニア駅周辺に大きな幹線道路を造り、駅前広場、観光ターミナル、マンション、ホテル、郵便局、公益施設、駐車場、商業施設、企業、住宅地などを計画しています(「中津川市リニアを活用したまちづくり構想」ー2019年7月ーより)。しかし、中間駅は1時間に1本しか停車しないし、その列車に乗れば各駅停車にしかならないのにこれだけの需要があるのでしょうか。

「人口減少社会」とは真逆な壮大な計画

「人口減少社会」の到来で「経費の削減、縮小」、「スマート自治体」だと言いながら、もう一方で新たにこれほどの都市を造るといふ計画に整合性があるのか、一体どれほどの人口増になるのか、どこから人が来るのか大いに疑問です。

「人口減少社会」を理由に様々な縮小、削減を進め、市民負担を増やしながら、もう一方で巨費を投入して巨大な開発ーこんなまちづくりで誰が喜ぶのでしょうか。亀山市も中間駅ができるとなればこうした計画を作ることになると思いますが、「夢物語」に乗せられることなく、冷静な見極めが必要です。

亀山駅周辺整備事業で大きな疑問

図書館は55万円なのにマンションは31万円

2月19日の亀山駅周辺整備特別委員会で、図書館とマンションの床単価が明らかになりました。下の表の通り、1㎡の単価が図書館は54.5万円、これに

区分	㎡単価	保留床処分金	専有面積をかけると16億5,700万円になり、この額を市は再開発組合に支払い床を購入します。
図書館	54.5万円	16億5,700万円	一方分譲で売り出されるマンションは、1㎡の単価が31.2万円、これに専有面積をかけると10億200万円になり、不動産業者が組合に支払います。
地下駐車場	24.3万円	5億4,300万円	
マンション	31.2万円	10億 200万円	
駐車場	—	—	

なぜかマンションの駐車場分はゼロ円

支払うのはこれだけではありません。図書館は地下駐車場を専用使用しますので、この分の5億4,300万円も支払い、合計で22億円を支払うこととなります。一方マンションですが、地上に駐車場があり専用使用しますが、なぜか対象外になっています。この駐車場は約1,500㎡ありますからこれを入れると不動産業者はもっと多くの金額を負担をすることになります。

資金計画の見直しで増額されたのは図書館だけ

この床単価ですが、事業費が膨らみ資金計画を見直した際に図書館は13億円から22億円に9億円も負担が増えました。一方マンションは事業費が膨らんでも見直しされずに負担額は増えていません。これもおかしい話です。



結局、事業費が増えた分はすべて図書館が負担することになっています。マンションを販売するデベロッパー(開発に関わる不動産業者)が安く販売できるようにマンションは負担を増やさず、その分を市が受け持ったようなものです。

業者がマンションを安く売れるようにしたのか

結局、マンションの床単価(31.2万円)は、図書館の床単価(54.5万円)の57%に過ぎません。その上、駐車場は同じように専用使用するのにマンションの負担がないのも納得できません。

業者の儲けを保障するために市(市民)が多く負担するというようなことをさせてはなりません。